

2 年 団

学年主任： 山下 恵二

(1) 今年度の目標

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主的、自律的生活を心がけ、自分の言動には責任を持つ。
- ② 具体的な進路目標を持ち、主体的な学習をする。
 - ・目標実現に向けた効果的な学習の実践を目指す。
- ③ 特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・部活動や修学旅行・斯文祭などの学校行事に積極的に参加する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣やマナーについて学年全体で取り組む。
 - ・基本的な生活習慣が確立していることが最重要であること自覚させる。(服装検査・遅刻指導などの生活態度は、教員が共通意識を持ち、粘り強く指導する。)
 - ・手帳を活用する習慣を定着させ、より有効な活用へと習熟させていくとともに、学習計画表や生活時間調査、夏休みの生活時間調査等を有効に活用させ、PDCAを実践させる。
 - ・面接指導を効果的に実施し、つまずきの発見や悩み等を早期に発見する。(聞き取りを通じて生徒の内面に寄り添う指導をし、人間的に成長させる。)
 - ・ホームルーム活動を充実させ、級友の様々な考えを知り、自分を顧みる機会を与える。
- ② 学力の2極化が進む中、面接等を最重視し、個に応じた指導をする。
 - ・一日平均4時間の学習時間が取れるよう計画を立て実践させる。(学年+2時間)
 - ・受験情報雑誌を適宜紹介したり、進路の手引きを活用させたりして、自分に必要な情報を探す力をつけさせる。
 - ・オープンキャンパスに積極的に参加させ、進路意識を高めさせる。
 - ・「進路だより」や「学年だより」を効果的に発行し、どの時期に何をすべきかのヒント、アドバイスを与える工夫をする。
 - ・3学期を「3年0学期」と位置付け、受験生としての自覚を持って学習に取り組ませる。
- ③ 学年・クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによって人間的な成長を促す。
 - ・部活動の中核となって活動させる。(先輩や後輩との人間関係)
 - ・学校行事(運動会、斯文祭、津島杯、特に修学旅行、など)に積極的に参加させる。
 - ・その他の企画(高大連携事業や国際交流会、講演会)などに積極的に参加させる。

(3) 成果

- ① 授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣やマナーについて学年全体で取り組む。
 - ・校門指導や、その後の担任・生徒指導部による事後指導によって、服装違反や遅刻など、生活習慣に関わる事柄は概ね例年通りの状況である。
 - ・1年次に引き続き、「スコラ手帳」などの手帳を全員に持たせ、活用させるようにした。手帳の使用が習慣化している生徒にとっては、計画やスケジュール管理、学習成果の確認等において、なくてはならない存在になっている。
 - ・面接週間だけでなく、時機を見ての面接によって生徒の悩みや問題を知ることができ、早期に対応できた事例があった。
 - ・ホームルーム活動では、研修ホームルーム等で各クラスとも工夫を凝らしたホームルームを展開し、自分たちで考えたテーマについて、互いにコミュニケーションを取りながら問題解決に向けて取り組み、それを発表することができていた。
- ② 学力の2極化が進む中、面接等を最重視し、個に応じた指導をする。
 - ・1日平均4時間を目標としていたが、学習時間は、4月 3.2時間、6月 3.4時間、9月 2.9時間、11月 3.1時間であった(学年平均)。4月は過去5年で最高であったが、6月から11月は3番目となっている。
 - ・進路に必要な情報を活用することに関しては個人差があるが、進路HRを通して具体的に調べさせることで、その力についてはついてきている。

- ・「進路だより」や担任の言葉かけによって、オープンキャンパスへの参加を生徒に勧めている。参加した生徒は進路意識やその大学へのモチベーションを大いに高めている。
 - ・「進路だより」や「学年だより」は学期末や学期始めに発行され、その内容も、教科からのアドバイスや先輩の体験談、進路講演会の振り返りなど、生徒の意欲を喚起し、主体的な学習を促すものになっている。
 - ・「0学期宣言」を生徒の活動によるものとした。クラスから候補として提出されたスローガンを進路委員会で議決し、進路委員が学年全体の前で各自の「0学期宣言」を発表するなどした。スローガンである「今この瞬間が人生を変える」を刻字した鉛筆を各自に配布するなど、「0学期宣言」が生徒たちの印象に強く残るように工夫した。
- ③ 学年・クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによって人間的な成長を促す
- ・部活動において、2年生は中核となってよく活動した。各部とも円滑な運営ができています。
 - ・学校行事に積極的に参加することができていた。修学旅行では県内で初めて学年全体として東北の震災の地を訪れ、現在に至る状況を直接見聞して考えを深めるなど、貴重な体験をすることができた。
 - ・「科学の甲子園」香川県代表選考会に初めて参加し、優勝して全国大会への出場権を獲得した。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- ① 授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣やマナーについて学年全体で取り組む。
- ・多くの生徒は服装や時間などよく守れているが、遅刻や服装違反を繰り返す生徒も数名いる。クラスだけでなく、学年全体で情報を共有し、きめ細やかな指導を行っていくことが必要である。
 - ・1年次に比べ、2年次では手帳の利用の仕方は各自に任せる部分が大きいので、利用の状況が二極化していることがうかがえる。3年次は、これまで以上に手帳の役割が大きくなるので、学年の初めに今一度その意義を確認し、生活と学習をしっかりとしたものにするために主体的に活用させたい。
 - ・面接を行う時間がどうしてもとれない状況があるので、昼休みや放課後など、担任が生徒と面談しやすくなるように、校務分掌面から条件整備をしておくことが必要ではないか。
 - ・ホームルーム活動で、1年次に学習して取り組んだディベートを2年次でも行って、発展・深化させることが大切ではないか。
- ② 学力の2極化が進む中、面接等を最重視し、個に応じた指導をする。
- ・1日の学習時間が4時間以上の生徒は年間を通して60人前後であった。逆に、1時間未満の生徒も年間を通して10人程度であった。3時間程度の生徒が多数派であり、その層が4時間に近づくか2時間に近づくかで、全体の学習時間も変わると考えられるので、学力の底上げのためにも、学習時間及び成績の中間層を上を引き上げる取り組みが必要である。
 - ・必要な情報をうまく見つけたり活用したりすることが特に苦手な生徒に対しては、担任等による個別の指導が必要となる。
 - ・東大や京大に関しては、1年次にオープンキャンパスに行った生徒が多く、2年次での参加は少なかった。学年全体としてオープンキャンパスへの参加状況は把握しておらず、今後はそれを把握することが必要かもしれない。
 - ・「進路だより」や「学年だより」の内容は、例年通りの部分もあるが、その学年のその時期特有の効果的な内容もあり、生徒の状況を見逃さないように、毎回工夫をしていくことが大切である。
 - ・「0学期宣言」は生徒の活動によるものではあったが、生徒の主体的な活動であったとまでは言えない。企画立案の段階から生徒主体で運営させるなどすれば、より効果的だと考えられる。
- ③ 学年・クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによって人間的な成長を促す
- ・学校行事により主体的に取り組ませていくために、HR等の時間を確保して、話し合いや準備の時間を保証することが必要ではないかと考えられる。
 - ・科学の甲子園や英語スピーチコンテストなどに継続して参加させるとともに、科学オリンピックなどを部の活動に位置づけた上で、参加させていくことが大切ではないか。